

立命館經濟學

第四卷 第一号

昭和三十年四月

内 容

論 說

- 経営学における労務の考察……………祭原光太郎 1
ゼウ理論にたいする二つの批判……………住ノ江佐一郎 33
わが国飲業における親方制度の解体過程……………大 山 敷 太 郎 55
——「わが国飲業労働における封建制と親方制度」補論その一——
四四年手稿断片「疎外された労働」における
マルクスの哲学思想（下の上）……………樋 田 明 秀 78

資 料

- 工業史の一断片（下）……………淡 川 康 一 117

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学

第三卷・第六号

論説

「四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想（上）

梯 明秀

唯物論についての覚書（其の二）

阿部 矢二

日本輸出入銀行

——従属化、軍事化の貿易金融中枢としての——

武藤 守一

研究

近世都市近郊に於ける農民生活

——城州乙訓郡今里村における庄屋解職運動について——

足立 政男

「標準原価計算」に関する若干の考察

寺 島 平

景気変動論についての一試論

——シミュレーターをめぐる——

浜崎 正規

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第三卷・第七号

阿部教授還暦祝賀論集

徳野灘沿岸漁村における「本役〔本家株〕・半役〔分家株〕制」と漁業共同経営

大山敷太郎

住民税論

藤谷 謙二

世界労連の結成と分裂

平田 隆夫

新企業担保制度に関する若干問題

井上巖次郎

日本長期信用銀行

武藤 守一

——日本経済従属化軍事化の設備金融中枢として——

フオード五〇年

木村喜一郎

発生主義の会計における

実現主義の問題

津ノ園長四郎

「四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想（中）

梯 明秀

発行所

立命館大学人文科学研究所